

# 令和4年度事業報告書 目次

## I 事業の概要

### 1 保健管理研究集会事業

1) 全国研究集会開催事業 ..... 2

2) 地方部会研究集会開催事業 ..... 4

### 2 保健管理業務情報事業

1) 機関誌発行事業 .....12

2) 情報活用・交換事業 .....13

# 令和4年度事業報告書

## I 事業の概要

### 1 保健管理研究集会事業

#### 1) 全国研究集会開催事業

全国大学保健管理研究集会は、全国の国・公・私立大学における保健管理の研究者及び実務担当者等が一堂に会し、各大学において取り組んでいる学生・教職員の保健管理に関する種々の課題について、その調査・研究成果を発表・討論すると共に、日常業務に関連した領域の識者から専門事項について教えを受け、感染症やメンタルヘルスなどの時宜を得た講演を受講し、シンポジウムにおいて議論に参加することにより、参加者の専門知識の修得及び技術の向上を図り、大学における学生・教職員等の保健管理の一層の充実、公衆衛生の向上並びに学術研究の発展に寄与することを目的として開催している。

令和4年度の第60回全国大学保健管理研究集会は、対面方式としては3年ぶりに令和4年10月19日(水)、20日(木)の両日、横浜市の神奈川県民ホールと横浜産貿ホール・マリネリアで655名の参加のもと、文部科学省後援、当番校である北里大学と当協会との共催により開催された。

「教職員のすべてがチームで取り組む大学保健 ～この大切な概念をいかに次世代に伝えるか～」を共通テーマに、特別講演の開催など充実した内容の研究集会となった。

概要は、以下のとおりである。

- ・学長講演 教学運営の立場から大学保健に望むことーコロナ禍における体験からー

学校法人北里研究所 北里大学学長 島袋 香子

- ・特別講演

- 1 大学に求められる障害のある学生の権利保障 - 障害者差別解消法の改正をふまえて

京都大学 学生総合支援機構 障害学生支援部門 准教授 村田 淳

- 2 これからの大学での感染症対策

国際医療福祉大学 医学部公衆衛生学 教授 和田 耕治

- 3 健康関連スティグマ

～私たちは社会の否定的ステレオタイプにどう向き合うべきか？～

東京衛生アドベンチスト病院内科 杉本 正毅

- ・教育講演

- 1 大学生の睡眠を考える 広島大学保健管理センター 教授 岡本 百合
- 2 大学生の肥満とやせに対する食育  
東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 保健栄養学研究室 教授 日田安寿美
- 3 健診データを用いた臨床研究の実際  
九州大学大学院医学研究院 衛生・公衆衛生学分野 教授 二宮 利治
- 4 論文の書き方・研究テーマの見つけ方  
金沢大学保健管理センター 教授 吉川 弘明

#### ・シンポジウム

- 1 必ず来るであろう大規模災害に大学保健施設としてどのような準備をしておくべきか  
座長：山本 眞由美（岐阜大学 保健管理センター・大学院連合創薬  
医療情報研究科・医学部附属病院糖尿病代謝内科）  
山本 裕之（静岡大学保健センター）
  - ① 大学の規模大規模災害への備え：東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の経験から  
福島県ふたば医療センター 谷川 攻一
  - ② 自助・共助力を強化して若い力を発揮する環境作りを目指す  
仙台赤門短期大学（前石巻赤十字看護専門学校副学校長）安倍 藤子
  - ③ カウンセラーからみた震災後の時間経過に伴う学生の様相の変化と必要な支援について  
熊本大学大学院教育学研究科 准教授 黒山 竜太
  - ④ あなたは大規模災害への備えができていますか？  
～事業継続計画で見過ごされている重要なこと～  
岐阜大学工学部 教授 高木 朗義
- 2 ヘルシーキャンパスを達成するための方策 - 多職種連携の大切さ  
座長：石見 拓（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻  
予防医療学分野）  
砂川 昌子（東京女子大学保健室）
  - ① ダイバーシティ推進からヘルシーキャンパスへ  
島根大学教育・学生支援機構保健管理センター 教授 河野 美江
  - ② ヘルシーキャンパスを達成するための方策について 看護師・保健師は保健管理の  
コーディネーター 政策研究大学院大学 保健管理センター 田中 ゆり
  - ③ 連携をするために心がけていること～事務職員の立場から～  
中部大学 学生サポートセンター事務課 可児 由香
  - ④ カウンセラーが教職員との連携・連絡の際に考えること

岩手大学保健管理センター准教授 早坂 浩志

⑤ 学生にとってのヘルシーキャンパスとは

北里大学看護学部 村上奈々子、今井 菜摘

・イブニングセミナー

メンタルヘルスに関連する問題を持つ困難例への対応－分担・連携・集約－

立教大学 コミュニティ福祉学部 教授 松山 真

・ランチョンセミナー

① おとなのワクチン外来 から大学生と関係者に伝えたいこと

JA 静岡厚生連 静岡厚生病院 小児科 田中 敏博 主催：サノフィ株式会社

② 携帯電話の電磁波って危ないの？－ WHO の見解を紹介します－

一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター 所長 大久保千代次

主催：一般財団法人電気安全環境研究所

・一般研究発表

「産業保健」「大学組織体制とスタッフ教育」「健康教育（方法他）」「健康教育（体格・食事・運動）」「健康診断結果の解釈」「健康診断の体制構築」「4 種感染症」「新型コロナウイルス感染症に対する体制構築 1・2」「コロナワクチン接種状況・罹患状況」「コロナワクチン副反応・後遺症」「マイノリティー支援」「自死・精神衛生」「留年・休退学」「学生支援の探索的な取り組み」「学生理解と支援」「コロナ禍における学生・職員対応 1・2（状態・分析その他）」「学生発表」「コロナ禍における学生支援 3（ライフスタイルの変化）」「コロナ禍における学生支援 4（ライフスタイルの分析）」をテーマに 107 演題が発表された。

## 2) 地方部会研究集会開催事業

当協会では、北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国四国及び九州の各地域に地方部会を設け、当該地域の大学の保健管理施設に勤務する医師、研究者や医療担当者等が日頃から取り組んでいる保健管理に関する課題等について、その成果を発表・討論するほか、地域の特性に応じたテーマ或いは職種毎の研究会・研修会を開催して保健管理に関する研究の進展や技術の向上等を目的とした地方部会研究集会を開催しており、本年度もコロナ禍の影響は残っていたが、その中でも成果を上げることが出来た。詳細は以下のとおりである。

### 1. 北海道 地方部会報告

地方部会研究集会 令和4年8月26日（参加者：33校 74名）

- ・講演Ⅰ 演題 「発達障害の特性を持つ学生の理解と支援について」  
講師 北海道教育大学 札幌校 准教授 齊藤 真善  
司会 北海道教育大学 保健管理センター カウンセラー 三上 謙一
- ・講演Ⅱ 演題 「口・歯のけがについて」  
講師 北海道医療大学 歯学部 教授 齊藤 正人  
司会 北海道教育大学 保健管理センター長 羽賀 将衛
- ・講演Ⅲ 演題 「大学生の対人葛藤解決のヒント」  
講師 北海道教育大学 札幌校 准教授 益子 洋人  
司会 北海道大学 保健センター カウンセラー 武田 弘子
- ・研究発表 司会 北海道教育大学 保健管理センター長 羽賀 将衛
  - ・演題1 大学における新型コロナウイルス感染症発生状況と感染拡大リスクの検討  
小樽商科大学保健管理センター 高橋恭子、佐藤希代巳、北川こずえ、杉山 成
  - ・演題2 北海道大学生への COVID-19 に関わる感染症のアンケート調査報告  
北海道大学保健センター 川原由佳子、五十嵐典子、折戸智恵子、吉村彩、武田弘子  
大野正芳、橋野 聡

## 2. 東北地方部会報告

地方部会研究集会 令和4年7月15日（参加者：41校101名）オンライン開催

- ・教育講演Ⅰ 「感染症から学生を守る -秋田大学の取組み-」  
秋田大学医学部附属病院感染制御部 部長・病院教授 嵯峨 知生
- ・教育講演Ⅱ 「全ての若者に知ってほしい、プレコンセプションケア（妊娠前からの健康管理）とは」  
秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻社会環境医学系  
衛生学・公衆衛生学講座准教授 前田 恵理
- ・一般研究発表（5題）
- ・令和4年12月、「平成4年度東北地方研究集会報告書」を発行した。

## 3. 関東甲信越地方 地方部会報告

地方部会研究集会（ハイブリッド） 令和4年9月1日～2日（参加者：154校322名）

9月1日

- ・部会長講演「理工系総合大学の学長が考えていること」東京工業大学長 益 一哉

・特別講演「ケアと利他」

演者：伊藤 亜紗（東京工業大学科学技術創成研究院 未来の人類研究センター教授）

・シンポジウム「多様な相談窓口によるネットワーク支援」

発表者：一瀬 宏（東京工業大学生命理工学院教授）

上野 修一（東京工業大学学生支援センター特任専門員）

小川 康輔（東京工業大学ピアサポーター代表）

野村 彩乃（東京工業大学ピアサポーター副代表）

松尾 祥汰（東京工業大学ピアサポーター副代表）

黄 文青（東京工業大学ピアサポーター副代表）

・教育講演1「発達障害を持つ学生への理解と支援」

演者：太田 晴久（昭和大学発達障害医療研究所所長）

・教育講演2「アフリカの精神科医療」

演者：丸谷 俊之（東京工業大学保健管理センター准教授）

9月2日

・教育講演3「感染症の基本から－HIVと梅毒など－」

演者：菊池 嘉（国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター臨床研究開発部長 ACC 治療科長）

・教育講演4「グローバル感染症としての結核－留学生の健康管理の視点から－」

演者：高崎 仁（国立国際医療研究センター病院第五呼吸器内科医長・国際感染症センター）

#### 4.東海・北陸地方部会報告

地方部会研究集会令和4年7月28日～29日（参加者：49校86名）

第1日目

・パネルディスカッション1

テーマ 「コロナ明けを見据えた学生及び教職員のメンタルヘルス」

座長 富山大学 保健管理センター 講師 西山 志満子

パネリスト 「学生（障害学生を含む）のメンタルヘルス

～コンパッション・フォーカスト・セラピーの観点から～」

北海道大学 学生相談総合センター 准教授 榊原 佐和子

パネリスト 「教職員を対象とした組織におけるメンタルヘルス

上司のコンパッション・リーダーシップの観点から」

東京成徳大学 応用心理学部臨床心理学科 准教授 石村 郁夫

・パネルディスカッション2

- テーマ 「COVID-19禍における多様な取り組み」  
座長 富山大学 保健管理センター杉谷分室 准教授 石木 学  
パネリスト 「COVID-19パンデミックにおける金沢大学の取り組み」  
金沢大学 保健管理センター 教授 吉川 弘明  
パネリスト 「北陸先端科学技術大学院大学における新型コロナ対策について」  
北陸先端科学技術大学院大学 保健管理センター 教授 古川 健治  
パネリスト 「富山大学医療系キャンパスにおけるCOVID-19への対応」  
富山大学 保健管理センター杉谷分室 准教授 石木 学

第2日目

・特別講演Ⅰ

- 座長 富山大学 保健管理センター長 松井 祥子  
演題 「ヒトと知（地）の健康（well-being）を目指した大学創り」  
講師 富山大学 学長 齋藤 滋

・保健管理担当職研究集会報告

- 司会 富山大学 保健管理センター長 松井 祥子  
総括 保健管理担当職研究集会 当番校 山田 真帆

・特別講演Ⅱ

- 座長 富山大学 保健管理センター長 松井 祥子  
演題 「潜在意識下の脳機能」  
講師 富山大学 学術研究部医学系 教授 井ノ口 馨

- ・令和5年2月「令和4年度東海・北陸地方部会報告書」を発行した。

5. 近畿地方部会報告地方研究集会

《近畿地方部会研究集会》《近畿地方部会保健師・看護師班研究集会》

2022年8月30日（参加者：76校168名）

- ・講演1「COVID-19診療の最前線～ウイズコロナ、ポストコロナに向けて～」  
（座長）近畿大学 メディカルサポートセンターセンター長代理 藤本 美香  
近畿大学病院 東田 有智 病院長  
・講演2「メンタルヘルスに関する現場問題と法」  
（座長）近畿大学 メディカルサポートセンター  
カウンセリング室 室長代理 長田 道

センター長代理 藤本 美香

近畿大学 法学部 三柴 丈典 教授

- ・ 講演3 「～近畿自治体における保健活動のご紹介～

大阪府「健康キャンパス・プロジェクト」

(座長) 近畿大学 メディカルサポートセンター

センター長代理 藤本 美香

大阪府健康医療部 健康推進室 健康づくり課

企画・データヘルス推進グループ 吉永 留実子 課長補佐

(特別ご発言) 全国大学保健管理協会 代表理事 大阪大学 守山 敏樹教授

- ・ 講演4 「“良い睡眠”のための理論と実践」

(座長) 近畿大学 メディカルサポートセンター

カウンセリング室 室長代理 長田 道

近畿大学 医学部 解剖学教室 重吉 康史 教授

#### 【報告事項】

- ・ 2023・2024・2025年度兵庫地区世話人校及び運営委員校
  - ・ 2022年度保看班 幹事校・常任幹事校・代表幹事校
  - ・ 2022年度地区別研修会当番校
- について報告を行った。
- ・ 2023年3月「2022年度近畿地方部会活動報告書」を発行予定である。

#### 6.中国四国地方部会 地方部会研究集会

令和4年8月25日～26日(参加者:36校152名)

- ・ 特別講演「フラジャイルなコミュニケーションー学生の学びはどう変わろうとしているか？」 島根大学教育・学生支援担当理事 肥後 功一
  - ・ 教育講演「笑いの効用」 島根大学医学部附属病院腎臓内科診療教授 伊藤 孝史
  - ・ 一般研究発表は18題が発表された。
- ・ 令和4年11月、「第52回中国四国保健管理研究集会の報告書」を発行した

#### 7.九州地方部会 地方部会研究集会 令和4年7月11日～29日

(参加者:42校 123名)

- ・ 学長講演 「ウィズコロナと持続性を求める地方大学の在り方」  
福岡大学学長 朔 啓二郎

- ・特別講演 「大学における性暴力への対応～予防から被害者支援まで～」  
島根大学 保健管理センター教授 河野 美江
- ・合同セミナー テーマ「大学における性を考える」  
座長／九州工業大学 保健センター 保健・看護分科会 会長 福盛 文恵  
コーディネイター／福岡大学 健康管理センター診療所長 森戸 夏美
- ・合同シンポジウム テーマ「スポーツを通じた学生指導」  
基礎講演 「育て上手のコーチング」～大学スポーツで磨く個性の伸ばし方～  
福岡大学 スポーツ科学部教授 乾 真寛
- 講演Ⅰ 「スポーツと健康～スポーツが身体へもたらす効果を考える～」  
福岡大学 スポーツ科学部教授 上原 吉就
- 講演Ⅱ 「日常に活かせるアスリートのメンタルマネジメント」  
福岡大学 スポーツ科学部教授 下園 博信
- 講演Ⅲ 「多様な困難を抱える学生達が共に学べる支援体制と運動プログラムの実践  
－生涯スポーツ演習（保健コース）取り組みの紹介－」  
福岡大学 スポーツ科学部准教授 今村 律子

・一般演題Ⅰ

座長：熊本大学保健センター長 藤瀬 昇  
コーディネイター：産業医科大学 産業・地域看護学 保健師 八谷 百合子  
九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 保健師 松園 美貴  
のもと、4題が発表された。

・一般演題Ⅱ

座長：九州工業大学 キャンパスライフ支援本部 教授 嘉数 直樹  
コーディネイター：産業医科大学 産業・地域看護学 保健師 八谷 百合子  
九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 保健師 松園 美貴  
のもと、5題が発表された。

○保健・看護分科会等の研究集会・研究会

1. 北海道地方部会 保健師・看護師分科会
  - ・保看会会員の自己研鑽および技術・技能等の向上を目的に e-ラーニングによる学習の機会を提供した。(令和4年8月4日～令和5年2月28日)
2. 東北地方部会 保健・看護分科会

- ・講演会 令和4年7月15日（参加者：74名） 地方部会研究集会の中で開催  
演題 「秋田大学学生サポートルームにおける学生支援の取り組み」  
秋田大学学生支援総合センター学生サポートルーム特任講師 伊藤 麻里

### 3. 関東甲信越地方部会

保健・看護分科会（ハイブリッド開催）令和4年9月2日（参加者：154校322名）

司会：田中 大介（昭和大学保健管理センター所長）

司会：砂川 昌子（東京女子大学教育研究支援部保健室保健師）

- ・「学生のメンタルヘルスと危機管理」  
演者：大溪 俊幸（千葉大学総合安全衛生管理機構准教授）
- ・「職員のメンタルヘルスと危機管理 緊急度に応じた対応」  
演者：中島 亜矢子（アズビル株式会社大崎健康管理室保健師）
- ・「コロナ禍での保健室業務 保健・看護分科会 運営委員より」  
演者：脇本 澄子（松本大学健康安全センター保健師）

看護職初任者講習会（オンライン開催） 令和4年11月17日（参加者：112名）

- ・「保健室運営」演者：砂川 昌子（東京女子大学 保健室）
- ・「外傷処置、救急対応」演者：脇本 澄子（松本大学 健康安全センター）
- ・「感染症対策」演者：吉田 智子（千葉大学 総合安全衛生管理機構）
- ・「学生・職員のメンタルヘルス」演者：青木 裕見（聖路加国際大学大学院 看護学研究科 精神看護学）
- ・「学生健康診断」演者：澁谷 麻由美（慶應義塾大学保健管理センター）
- ・「教職員健康診断」演者：萱場 隆人（東海大学高輪ランチ健康推進室）

### 4. 東海北陸地方部会保健管理担当職研究集会

令和4年7月28日（参加者：49校72名）

#### ・特別講演

司会者 富山大学 学務部学生支援課長 生田 孝行

演題 「発達障害のある学生への支援～コロナ禍における諸問題への対応～」

講演者 富山大学 保健管理センター 客員准教授 西村 優紀美

#### ・シンポジウム

テーマ 「コロナ禍における健康支援」

座長 富山大学 保健管理センター 看護師 山田 真帆

「三重大学におけるコロナ対応～学内連携を活用した体制の構築～」

三重大学 保健管理センター 保健師 吉村 さくら

「豊橋技術科学大学 コロナ禍での健康支援～学内連携で学生を守れ！～」

豊橋技術科学大学 健康支援センター 保健師 河津 美和

「小規模キャンパスの取り組み～学内 Web ツール利用を試みて～」

富山大学 保健管理センター高岡分室 看護師 宮田 留美

・令和5年度全国保健管理協会東海・北陸地方部会保健管理担当職研究集会について

(静岡地区研究会) 令和4年8月26日 (参加者：13校21名)

当番校：静岡大学保健センター浜松支援室

会 場：静岡大学浜松キャンパス

講 演：新型コロナウイルス感染症のため中止

(東海地区研究会) 新型コロナウイルス感染症のため中止

(北陸地区研究会) 令和4年11月9日 (参加者：22校30名)

当番校：金沢大学

会 場：金沢大学本部棟6階大会議室

講 演1:「大学生の喘息を見逃さないで」

講 師：金沢大学 保健管理センター 助教 阿保 未来

講 演2:「学生の心のケアおよび学生相談について」

講 師：金沢大学 保健管理センター 教授 足立 由美

## 5.近畿地方部会

・**看護師・保健師班等の専門部会活動**

《近畿地方部会保健師・看護師班地区別研修会》

(京滋地区) 京都教育大学 (書面開催) (対象：30校)

新型コロナウイルス感染症の影響により2022年度は書面形式での開催とした。

2022年12月22日に各大学に開催通知を送付し、併せて協議事項及び承合事項

について照会を行った。

(兵庫地区) 神戸常磐大学 2022年12月8日 (Web開催) (参加者：33校50名)

【講演】

・「健康は規則正しい生活リズム、良い睡眠から」

神戸常磐大学 保健科学部 塩谷 英之 学部長

・「歯周病と全身の関わり」

神戸常磐大学短期大学部 口腔保健学科 山城 圭介 教授  
(阪奈和地区) 桃山学院教育大学 2022年12月7日 (オンライン配信)  
(参加者: 28校45名)

【講演】

- ・「薬物依存からの立ち直りの実際～プログラムコストとその実践」  
～改善のケース紹介を通して～

薫化舎グループ代表 桃山学院教育大学 向井 義 客員教授

6.中国四国地方部会 保健看護分科会

令和4年8月25日～26日 (参加者: 32校77名)

- ・Web開催のため、保健看護分科会勉強会は本会を兼ねるものとした。

7.九州地方部会 保健・看護分科会

令和3年度より、九州地区大学保健管理研究協議会との合同開催となった。  
講演等については、開催校の福岡大学と協働実施した。

## 2 保健管理業務情報事業

### 1) 機関誌発行事業

大学における保健管理に関する調査研究活動の一環として、学術論文集を機関誌『CAMPUSHEALTH』としてホームページに掲載している。

本機関誌『CAMPUS HEALTH』は、特集記事、推薦論文、投稿論文、特別寄稿記事から構成する研究論文集と、全国大学保健管理研究集会報告集をそれぞれ年1回作成している。

令和4年度の、『CAMPUS HEALTH59(2)』(研究論文集)は、特集「イントラ～ポスト・コロナ時代のキャンパスヘルス」をテーマに「対面授業に不安を抱える学生への教育的配慮 ―コロナ新時代における大阪大学の取り組み―」「新型コロナウイルス感染症への取り組みと影響」「総合大学における職域接種(大学拠点接種)」「市内連携大学を含めた新型コロナワクチン職域接種の実施」「オンラインで変わるキャンパスライフ

と学生支援」の5編と原著論文7編を掲載した。

また、第60回全国大学保健管理研究集会の報告集『CAMPUS HEALTH60(1)』には「教職員のすべてがチームで取り組む大学保健 ～この大切な概念をいかに次世代に伝えるか～」を共通テーマに、特別講演「大学に求められる障害のある学生の権利保障 - 障害者差別解消法の改正をふまえて」「これからの大学での感染症対策」「健康関連スティグマ ～私たちは社会の否定的ステレオタイプにどう向き合うべきか?～」3演題、また教育講演として、「学生の睡眠を考える」「大学生の肥満とやせに対する食育」「健診データを用いた臨床研究の実際」「論文の書き方・研究テーマの見つけ方」の4演題、シンポジウムとして「必ず来るであろう大規模災害に大学保健施設としてどのような準備をしておくべきか」「ヘルシーキャンパスを達成するための方策 - 多職種連携の大切さ」の2演題、ランチオンセミナー「おとなのワクチン外来 から大学生と関係者に伝えたいこと」「携帯電話の電磁波って危ないの? - WHO の見解を紹介します - 」の2演題、更に一般研究発表として「産業保健」「大学組織体制とスタッフ教育」「健康教育(方法他)」「健康教育(体格・食事・運動)」「健康診断結果の解釈」「健康診断の体制構築」「4種感染症」「新型コロナウイルス感染症に対する体制構築 1・2」「コロナワクチン接種状況・罹患状況」「コロナワクチン副反応・後遺症」「マイノリティー支援」「自死・精神衛生」「留年・休退学」「学生支援の探索的な取り組み」「学生理解と支援」「コロナ禍における学生・職員対応 1・2 (状態・分析その他)」「学生発表」「コロナ禍における学生支援 3 (ライフスタイルの変化)」「コロナ禍における学生支援 4 (ライフスタイルの分析)」をテーマに107演題を掲載した。

## 2) 情報活用・交換事業

従前からの課題である麻疹や風疹の流行、子宮頸がんワクチンの接種に関わる問題などの感染症対策、学校保健安全法で必ずしも網羅できていない大学生の健康管理のあり方、積極的な健康増進施策のあり方など、大学における保健管理に関する事案について、各種の情報や資料の収集を行い、各大学が合理的で適切な判断や対応ができるように、収集した情報や資料を継続的に提供しているところである。

新型コロナウイルス感染症への対応にも積極的に取り組むために「新型コロナウイルス感染症対策ワーキンググループ」をいち早く立ち上げ、各現場での取り組みへのサポート及び情報交換を積極的に行って、各現場担当者のサポートを行っているところである。

3年前に立ち上げた「2020\_2021 学生調査実施ワーキンググループ」は文部科学省の委託を受け、令和3年度から自殺学生の動向などから、悩み相談体制の構築や専門家との連携など施策のための調査を実施し、その成果は文部科学省のホームページに「令和3年度 大学における死亡学生実態調査報告書」として令和5年1月に公表されている。令和4年度も継続して調査を実施しており、同様に文部科学省のホームページで公表されることになっている。更に令和5年度も継続して調査を実施することが検討されている。

2年前に立ち上げた「ヘルシーキャンパス運営委員会」は、ウォーキングチャレンジなどイベントを通じて学生、教職員への健康への関心を高めることも行っており、ウォーキングチャレンジは参加校が全国に広がっており、一層の成果が期待されている。

「ウェブ情報委員会」では電子メール双方向配信システムの充実を進めており、このシステムを利用して、感染症の発生など緊急事態への対応時の連絡や情報を一斉配信する事業の進化を図っている。

「国際連携委員会」では一般社団法人 国立大学保健管理施設協議会 国際交流推進特別委員会と共同編集した「海外留学健康の手引(第4版)」をオンライン上に公開し、留学を考えている学生諸君の便宜を図っている。

「研究倫理委員会」では、大学の保健管理に資することを目的として、会員、会員を含む研究グループが行う研究課題での倫理的妥当性の審査を行っている。

「保健看護委員会」では各地方部会での分科会活動のほか、マニュアル作成に取り組んでいる。

またホームページを通して、会員間だけでなく、当協会が実施する研究集会などの行事予定、地方部会の活動状況、など情報を広く提供し、大学の保健管理に関する資料などの情報公開に努めており、特に各地方部会情報の充実を図っていくことにしている。